

しもばしら
霜柱

きそ基礎 ⑤

しもばしら
霜柱

冬のさむい朝、土の上に、細い氷の柱がたくさんならんでい
ることがあります。これを、霜柱しもばしらといいます。

霜柱しもばしらは、土の中の水がこおってできます。

まず、地面じめんの近くの水がこおります。すると、土の中から、
つぎつぎに水が上がってきて、その水もこおります。こうし
て、こおった水が下からおし上げられ、氷の柱こおりはしらがのびていくの
です。

霜柱しもばしらは、地面じめんの近くが0度ど、土の中は0度よりあたたかいと
きに、よくできます。霜柱しもばしらをふむと、ざくざくと音がします。

① 霜柱しもばしらが見られるのは、いつですか。

ア 夏のあつい昼

イ 冬のさむい朝

ウ 春の雨の日

② 霜柱しもばしらは、何がこおってできますか。

土の中の



③ 霜柱しもばしらができるじゅんに、□に1・2・3を書きましょう。

その水もこおる。

地面じめんの近くの水がこおる。

土の中から水が上がってくる。

④ 霜柱しもばしらがよくできるのは、どんなときですか。

ア 土の中も、地面じめんも、とてもあたたかいとき。

イ 地面じめんの近くが0度どで、土の中はそれよりあたたかいとき。

ウ 雪がたくさんふったとき。